

情報部会 部会記録

令和4年11月10日（木）13:30～

オンラインでの開催

1 開会の挨拶

林 成佳 部会長（大門）

2 研究発表

研究発表Ⅰ

「本校における情報Ⅰの実施に向けての取り組み」

森田 大翔（南砺福野）

学校の特色や生徒の実態を踏まえ、「情報Ⅰ」の来年度実施に向けての取り組みが紹介された。数学科や公民科など他教科と連携しながら、「共通テスト」に対応できる力を身につけさせるための準備・課題についての研究が報告された。また「社会と情報」で実施した体験ゲームを入り口とした「プログラミング学習」の実践についても報告された。

研究発表Ⅱ

「2025年大学入学共通テスト「情報」について」

中西 純（情報Ⅰ教育研究会）

「情報Ⅰ」の指導内容を網羅した「情報Ⅰ教育研究会」による「事例集」の一部が紹介された。「事例集」には、授業の指導内容や留意点が簡潔に盛り込まれており、「情報Ⅰ」を指導する教員のプラットフォームとして活用ができ、今後の「情報Ⅰ」の授業実践に取り入れやすいものになっている。

3 全国高等学校情報教育研究大会参加報告

中西 純（大門）

「教科『情報』第3ステージ～『情報Ⅰ』の実践～」をテーマとして開催された全国大会にリモート参加された内容が報告された。中山泰一氏（電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）による「情報Ⅰ、情報Ⅱ、そして情報入試～全高情研とともに～」を演題とする基調講演の内容について紹介された。また、「情報入試研究会」の活動内容等について、実践的な内容の報告がされた。中山 泰一 氏の講演資料・動画は次の URL

<https://www.zenkojoken.jp/15online/2022015659/>

4 指導助言

吉田 壮志 指導主事

教科「情報」には、他教科と関連の深い学びが多くある。学習指導要領の中にも、「他教科と横断的に指導するように」という記載がある。各校において、カリキュラムマネジメントを通じて、必要な教育内容を組織的に配列し、相互の内容の関連を図っていただきたい。そういう取り組みが、大学入学共通テストにおいても実を結んでくると思われる。また、プログラミングに関しては、ゲームなどを導入に取り入れるのは学びやすく良い。ただし、アルゴリズムやプログラムの記述の習得が目的ではなく、それを活用する力の大成である。日常を論理的に考察する力がプログラミングには求められることを理解しておいてほしい。

「情報 I 教育研究会」では、「情報 I」の指導内容をすべて入れ込んだ事例集を作成された。各学校の状況に応じて、うまく活用して授業を進めてほしい。

教員は、職責を遂行するために、絶えず研修に努めなければならない。引き続き、研修会など積極的に参加していただき、指導力の向上に努めていただきたい。

5 講演

「情報 I における授業の進め方と実践事例」

東京都立町田高等学校 情報科 指導教諭 小原 格 氏

「情報 I」は、まず年間計画をもとに授業をデザインし個々の授業においてどのように「学ぶ」のかを考えることが大切である。「情報 I」は、「問題解決的な学習」といわれるが、その「問題」の発見方法や「問題解決」のための実践事例が紹介された。豊富な経験をもとに実習では生徒が実践的に世の中で役立つことを取り入れ、グループワークを工夫して全員が学習する環境を整えて生徒同士が教えあう。そして、理想と現実のギャップが具体的であることが良い改善策を見つけることにつながるということを示唆していただいた。

6 閉会の挨拶

林 成佳 部会長（大門）